

番号	9	令和4年度公共事業事後評価調査		担当課名[公園緑地課]
事業名	都市公園事業		事業主体	静岡県
箇所名	しずおかけんくまなぎそうごううんどうじょう 静岡県草薙総合運動場		市町名	静岡市
事業概要				
事業の目的・必要性	草薙総合運動場は、県内最初の総合運動場として昭和16年に竣工し、昭和38年に都市公園として設置された。その後、運動施設の追加や施設の充実が進められたが、老朽化が進み、利用面の課題が多かったことから硬式野球場と体育館を中心に公園全体の魅力向上を図るための再整備を実施した。			
事業量	野球場(内野・外野スタンド)の改修 屋内運動場の整備(建築面積：約3,279㎡) 新体育館の整備(建築面積：9,701㎡) 緑地広場の整備(約7,000㎡)			
施設の利用状況や被害軽減効果 等				
当初 または 前回	事業費	事業期間	施設の利用状況や被害軽減効果 等	B/C : 16.8 EIRR : -
	19,035百万円	H20-H27	目標年間利用者数800千人	
事後	事業費	事業期間	施設の利用状況や被害軽減効果 等	
	18,835百万円	H20-H29	再整備後の年間利用者数1,090千人(H30)	
差	事業費	事業期間	施設の利用状況や被害軽減効果 等	
	200百万円減少 (1%減)	2年延長 (25%増)	年間利用者数が290千人増加(H30)	
<p>■事業費、事業期間 事業費は、概ね当初計画どおり実施した。 事業期間については、騒音振動に対する地元調整及び別途巴川流域総合治水対策（静岡土木事務所）の一環で実施した当公園駐車場の雨水貯留施設設置工事との調整により延伸した。</p> <p>■施設の利用状況 野球場、体育館、広場を中心に多くの人々が利用している。</p>				
事業の効果の発現状況				
<ul style="list-style-type: none"> リニューアル前後の10年間のプロ野球試合の開催実績を比較すると年平均試合数が1.62倍、平均観客数が1.15倍に増加しており、リニューアルの効果が発現されている。 草薙総合運動場は、静岡市の一時避難地、広域避難地となっており、緑地広場（旧体育館跡地）及び新体育館前広場（旧静岡学園跡地）の整備により1人あたりの避難地面積が1.37㎡/人から1.69㎡/人に増加した。また、体育館及び屋内運動場の整備により屋内緊急物資集積所として機能する屋内スペースが拡大し、県の防災拠点としての機能強化につながった。 				

事業実施による環境の変化

- ・スポーツ利用のための運動施設だけでなく、気軽に訪れ利用できる緑地広場を整備したことで、自由に遊んだり、散歩の休憩等の利用ができる憩いの空間の確保ができた。

事業を巡る社会経済情勢等の変化

- ・新型コロナウイルス感染症の拡大により、運動施設の利用は減少していたが、新しい生活様式が求められ、広場や緑地等のオープンスペースの利用は増加傾向にある。運動不足の解消・ストレス緩和への対応等の観点から、屋外空間の果たす重要性が再認識され、今後も利用が期待される。

対応方針（案）

- (1) 対応方針（案）
効果は発現しており改善措置の必要はない。
再整備後初年度の年間利用者数は目標を超える約1,090千人であり、R1は約900万人、R2は約564千人、R3は約617千人の利用がある。
R2、R3は新型コロナウイルスの影響で利用者数が落ち込んだが、収束後は回復する見込み。
- (2) 今後の課題・対応
年間利用者数、利用者満足度を維持していくために、指定管理者と連携し、引き続き利用促進に努める。
今後も利用者アンケート等により広く住民や利用者の意見を取り入れ、公園全体の魅力向上を図っていく。
- (3) 同種事業への反映等
本事業では、公園の整備方針や課題について地元自治会、近隣の大学生や関係者等が参加するワークショップを全5回実施し、住民の意見を設計に反映することで、皆様からより親しまれる公園整備を行った。
今後、他公園の整備・改修計画がある場合は、今回の手法を参考に魅力ある公園づくりを進めていく。